

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく生活されることを支援し、また入居者ご本人だけでなく、ご家族、地域の方々とも笑顔の耐えない施設である」と言う理念のもとに職員全員で努力している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会社の理念、苑の理念を玄関に掲示し、いつでも誰でも見ることができるようし、その人らしく生活される事を念頭に業務を行なっている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居契約の時、懇談会、運営推進会議において説明させて頂いている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物など、また事業所の行事(絵手紙作りなど)にお誘いしたり、挨拶を交わしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩等でお会いした時には挨拶が出来ている。		町内の行事に参加したいが、なかなか実施できていない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設の見学、実習生、研修生、百道中学校の職場体験学習の受け入れを可能な限り行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は、職員全員で確認しながら作成している。昨年、指摘された食事に関しては専門部会を立ち上げ活動、不足の栄養などが判り改善できている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、町内会の方からの意見を参考にさせて頂いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には包括支援センターから参加を頂いている。その時に情報交換をしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	リーガルサポート福岡県支部の研修会に参加したり、内部研修で取り上げ学習している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1回/3ヶ月、内部で研修を行なっている。身体的虐待だけでなく、精神的な(言葉によるものなど)虐待についても見過ごすことのないように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には書面・口頭をもって納得して頂けるまで説明している。入居後の質問も事業所で判断できないことであれば本部に問い合わせするなどして説明している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の言動からその思いを汲み取り、その人らしく生活できるような運営に努めている。また、運営推進会議に出席頂き、ご意見を頂いている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「ふれあい通信」を毎月発行し、健康状態・生活状況を写真を入れて報告し、職員の異動などについても一緒に報告させていただいている。お小遣いの出し入れも出費明細で毎月報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱・パンフを置いている。日頃から来苑された時に口頭で、運営推進会議、家族懇談会で意見を頂いている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ふれあい会全体で施設長会議・各担当会議・事業所内ミーティングを行なって、職員の意見・入居者の思いを業務に反映させることに努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>通院介助・個別のレクリエーション(潮の良い日に釣り・1対1での外食)などに勤務を調整して対応している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動・離職を最小限に抑えるように努めているが、必要な場合にはきちんと説明している。ご家族から質問があれば説明させていただいている。またふれあい通信にも記載し、説明させて頂いている。新しく採用された場合もご家族・入居者ともに説明している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に当たっては性別・年齢等制限していません。本部での面接後本人の希望、人柄を拝見しその方にあった事業所への紹介をし、その事業所の管理者と再度面接、採用を決定しています。休みの希望は可能な限り調整している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>ふれあい会全体の研修で、利用者お1人お1人に対して、その方の思いを尊重した援助を行うことができるよう、どのような気持ちで向き合っていくかについて、自分自身で振り返る機会を持ち、新たな気持ちで取り組めるような研修を行いました。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護福祉士・介護支援専門員の資格習得の為、勉強会をしている。参加する職員のシフトを調整している。外部の研修参加者には受講費用の支援がされている。また、新規採用者や異動時にはプリセプターシップを導入し、先輩職員が担当して指導や相談相手になっている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ふれあい会の中での交流は行っており、地域の同業者との交流までは行っていない。</p>		今後、地域のグループホームとも交流を持っていきたい
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休みの希望は可能な限り調整している。外での懇親会を時々している。年に2回、本部との個人面談を行い意見を聞く機会をもっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々のアイデアを尊重し、運営に直結することは実行してもらっている。研修の受講の促しや、受講費を支援している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には必ず事前に訪問させていただき、ご本人・ご家族から話しをお聞きし、ご本人のこれまでの暮らしの継続に努めている。また、環境の変化への不安を少しでも解消できるように、事前に数回お会いすることで、顔馴染みになれるように努めている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時にはご家族にも来て頂き、不安なこと、施設に対する希望や要望など詳しくお聞きするようにしている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人・ご家族の状態をきちんとお聞きし、必要に応じたサービスの紹介やご本人にあった施設の紹介をさせて頂く。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居を3泊4日していただいている。今まで使用されていた家具・寝具・食器やアルバムなど持参していただき、家具の配置などもできる限りこれまでと同じにするなど、落ち着いて頂けるように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>できる範囲の家事を手伝っていただいたり、一緒にゲームに参加していただいたりしている。ベランダでの菜園作りを続けて支援している。収穫を食事に供している。調理師をされていたからは、包丁の使い方、調理などを指導していただいています。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は一緒におやつを召し上がっていただいたり、ご家族からの提案をともに考えている。ふれあい通信や電話でご家族とともに支えることを大事にしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お気使いなく面会に来ていただき、リビングや居室などでお話していただいている。ご家族との外出も歓迎している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなた(家族・親戚・友人・旧知の方)でも面会を断ることなく来ていただいている。郵便物はご本人に、必要なときはご家族にお渡ししている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合わない方もおられるが、職員が間に入りお話ししたり、散歩にお誘いしたり、ゲームに参加していただいている。また、1・3階のフロアとも交流(相互訪問・合同おやつ会)を持っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた方の御家族と電話で話したり、転居になられた方の所へ面会に行ったりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思いを表現できない方からは、日常の行動、会話の中から意向を汲み取る努力をしている。又、ご家族から入居時には必ず、面会時にも情報を頂く様になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料を参考にしたり、ご家族からの情報を元に、アセスメントで把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	好きなこと、得意なこと、体調のことなどの把握に努め、楽しく生活して頂ける様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・主治医の意見を頂き、職員間のミーティングを行い、それぞれの意見を反映させたケアプランを作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほか、退院後、体調の著しい変化後には、ご本人・ご家族と話しあって作成し直している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録誌には職員全員が、ケアプランの状況、ご本人との会話や思いを記録する。口頭での申し送り、連絡帳での確認を毎日行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2ユニット・デイサービス・高齢者住宅が併設されていることで、多くの入居者、利用者、職員と交流することが出来ている。1回/月に全館合同おやつ会を開催している。御家族の事情では受診の付き添いも行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	緊急時には地域の方の協力が得られる態勢ができた。百道中学校の職場体験学習の受け入れを行なっている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容、訪問マッサージ・リハビリ、訪問看護を受け入れることを支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に主席して頂き協同していくことを約束している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診、緊急時には主治医だけでなく、看護師とも連携し支援している。必要ときは外部の病院を紹介して頂き受診の支援をしている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が認知症に知見が深いので、定期往診時に助言や指示を受けている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医だけでなく看護師との連携を持ち必要な時には訪問して頂いて、気楽に相談できている。毎朝、測定している体温・血圧・脈拍等についても主治医・看護師にFAXで報告している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>長期の入院は寝たきりになる可能性が大きいので、ご家族や関係機関と相談して、早期退院に努めている。入院中はお見舞いに行き、病院からの説明を聞くなどしている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居契約時にご家族と週末期のあり方について希望・要望を聞き取っている。必要に応じ、主治医・職員・本部で情報を共有している。このご希望も途中で変わることをも承知して、話し合いを持つ事になっている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本部の助言を受けながら、主治医のもと職員一致して支援できる。本年、緊急であったがご家族・主治医と相談し事業所での看取りをさせていただいた。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>当事業所での生活の様子などの情報を提供させて頂いている。必要なら訪問することも出来る。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報守秘義務は退職後も確認している。記録などは外から見えにくい棚に納めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	繰り返しの説明、日常の会話を重視して、思いを聞き取り見逃さないように努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	遅くまで寝ない方、食事を食べたくない方、レクに参加したくないと言われる方など心身の状態を確認して、その方のペースが守れるように努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人・ご家族の希望に添えるように努めている。起床時にはご本人と何を着るか相談したりしている。訪問理美容は全員の方が満足されている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所内での調理の手伝い、洗いもの、食卓の上で出来る食器拭きなどされている。また、料理の本を見ながら「何が食べたい？」と一緒に考えることもある。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒を希望される方には主治医の指示に従い飲んで頂いたこともある。コ-ヒーもホット・アイス好みをお聞きしている。お茶が嫌いな方にはジュースを飲んでいただくこともある。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	昼間はパット・オムツの使用を少なくしようと、排泄表を参考に声掛け誘導を行なっている。夜間はゆっくり眠りたい方にはパットを使用し適宜交換を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を優先するが、失便された時などには声掛けを工夫して入浴していただいている。	
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の眠りが浅かった方には昼寝を勧めている。日中の活動を促し夜間に十分な眠りに繋がるように努めている。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所仕事の好きな方、体操の好きな方、園芸に興味ある方、お習字の得意な方。各自の楽しみを支援している。	
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の現金を自室に持っておられる。訪問販売に来られるヤクルトを購入されたり、買い物に同行されて、菓子などを購入されることを支援している。	
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の希望、天候をみて散歩や買い物などにお誘いしている。	
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生会などで寿司屋などに出かけたり、2・3人で車に乗って買い物・ドライブなどに行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ダイヤルをプッシュしたり、ことばが出ない時には代わって話しをさせていただくこともある。はがきを書くことを支援したり、投函をする。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者様の活動時間内の訪問はお受けしている。居室やリビングで歓談していただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1回/3ヶ月、内部研修を行い、身体だけでなく精神的な拘束を行わないことを心掛けている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出て行かれる方がおられるので、職員の手薄な時には玄関にチャイムを取り付けているが、状況では外出の支援をしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	転倒の危険のある方の居室にはセンサーを取り付け、動かれたことが分かるようにしている。始めは見守りで対応、状況で声掛けなど行なっている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや爪きりの使用は見守りを行い、できるだけご自分で使っていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	69に同じく、転倒防止のためにセンサーの設置。内服薬のセットは必ず2人で確認、内服時にも2人で確認し合うことにしている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し周知徹底をしている。救命救急講習を全員が受ける。昨年3人終了。。本年2人受講予定。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施。法務省の宿舎の方や町内会方々が協力を承諾してくださっている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時に説明をしている。身体機能低下が見られる時は面会に来られたときや電話で随時説明を行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックとともに顔色など様子を見ることに努め、申し送り、連絡ノートに記載、確認している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している内・外薬ともに個人記録にファイルにしている。薬剤が届けられたら薬剤師に確認、また夜勤者が再度確認している。変更がある時は個人カルテに記載、申し送り、連絡ノートに記載、確認している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個人記録、熱計表に排便の有無を記載している。牛乳・ヨーグルト・繊維のある食物などの摂取に心掛けている。ご本人にも説明、散歩や体操などで体を動かしていただくことに努めている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週に1度、週訪問歯科による口腔ケアと指導を受けている。歯科医師の指示で個別に対応し、食後のハミガキをしていただいている。毎日が難しいときもあるが就寝前は必ず行なっている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない方には主治医と相談しエンシュアなどで対応。野菜嫌いな方には野菜ジュースなど工夫している。水分摂取が少ない方にはお茶だけだな、真水・ヤクルト・ジュースなどで対応している。極端に少ない方にはチェック表で記録し支援している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年10月に入居者・職員全員がインフルエンザ予防接種を受けている。外出から帰ったらうがい、手洗いを実行。排泄介護をした後、調理の前には必ず石鹸での手洗いを実行している。来訪者のため玄関に手指消毒剤を置いている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者がまな板・布巾などの消毒を行い、食材の消費期限のチェック、冷蔵庫の掃除をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にベンチを置き、壁に手擦りを設置し、安全に配慮し、花や入居者の作品を飾っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにも花や写真を飾ったり、入居者の方に説明して協力いただき、夜間はテレビの音量を下げたり、明かりを小さくしたりしている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファを置き、一人の昼寝の場所になったり、職員との1対1の会話の場になっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れたもの、見慣れたものを持参されている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	尿失禁のある方の居室、また感染予防のため換気に注意をしている。食事リビングにおられる間に窓を開けている。寒がり暑がりに合わせてエアコンを調節している。		
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室にまた必要にあわせ居室に手すりをつけている。杖の使用も声掛けをしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	言葉の説明の他、文字で、身振りで表したりしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで菜園作りを楽しんで頂いたり、天気の良い日は椅子を出してお話ししながら日光浴をしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)